

【様式】

平成28年度 学校マネジメントシート

学校名（三重県立四日市高等学校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○ 遍く陰しく、光輝く八稜星のごとく (八稜星) = 四高のシンボル ・ 多方面にわたって発展する若人の情熱を表現。 ・ 「八」は、画一を排し多様な価値観を大切にす懐の深さ、「稜」は高く陰しき壁にぶつかっても、心を動かさず耐え忍び、努力で克服する堅忍不拔の心意気を表象。
		(1) 自主・自律の精神(学習面・生活面) (2) 幅広い視野(グローバル・マインドとシチズンシップ(市民性)) (3) 挨拶(相互に尊敬し合う態度)
(2)	育みたい 児童生徒像	○ 勤務してやり甲斐があり、楽しい。 ○ 教職員相互が協力し合い、助け合う学校組織文化がある。
	ありたい 教職員像	

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>&lt;生徒&gt; 学力の向上、進路保障、部活動や交友関係の充実、安心して過ごせる学級。</p> <p>&lt;保護者&gt; 教員の学習指導力、進路指導力・対話力、人間関係の育成、安全安心な学校・学級。</p> <p>&lt;地域&gt; 学力の伸長、人格の形成、豊かな心、リーダーとしての人材の育成。リーディングハイスクール、トップ校としての進学実績。</p>	
		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		<p>&lt;中学校&gt; 四日市高校教員への指導力向上。</p> <p>&lt;予備校・学習塾&gt; 情報交換や情報共有。</p> <p>&lt;地域社会&gt; 本校との良きパートナーシップ。 人間教育育成全般への期待（文化行事、文化・運動クラブ団体等）。</p>	<p>&lt;大学・研究機関&gt; 先生方の講義協力（大学出前授業等）。</p> <p>&lt;予備校・学習塾&gt; 授業改善のための研修などによる協力。 情報交換や情報共有。</p> <p>&lt;地域社会&gt; 各団体や地域と相互に自立した関係の樹立。 豊かな心の育成、健やかな体の育成。</p>
		<p>・ グローバル人材の育成のため、SGHの取組を、包括的に益々推進して欲しい。</p> <p>・ 興味関心を持って探求する力を培う活動を充実させ、広い視野で積極的に取り組む生徒を増やして欲しい。</p> <p>・ 教職員の授業改善への熱心な取組は高く評価でき、継続・発展を期待する。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>○ 本校は、1899年の創立以来、我が国及び国際社会において活躍する多くの人材を輩出しており、三重県を代表する進学校として、生徒、保護者及び県民から大きな期待が寄せられています。とりわけグローバル化や人口減少が進むなか、新しい社会の地平を切り拓くリーダーとしての資質を育む役割が求められています。</p> <p>○ 生徒の視点に立ち、生徒一人ひとりの個性と生きる力（確かな学力、豊かな人間性、健やかな体）の育成を図るとともに、全ての生徒に卒業後も高度で優れた学問を学び続ける質の高い「学力」を培う必要があります。</p> <p>○ 「文武両道」の校是のもと、学習の充実と活発な部活動を効率的、効果的に行っていますが、主体性・多様性・協働性を育むための取組への支援を含めた在り方について考察する必要があります。</p>	
	学校運営等	<p>○ 生徒一人ひとりが自らの在り方・生き方を確立できるよう、教員との十分な対話の機会を設けるとともに、引き続きスクールカウンセラー等外部人材とも連携し、教育相談体制の充実を図る必要があります。</p> <p>○ 教育活動への献身的な取組が教職員の過重労働を生む土壌となっていることから、業務の精選・重点化を図るとともに教職員相互が協力し合い、助け合う学校組織文化を、より一層、醸成する必要があります。</p>	

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○スーパー・グローバル・ハイスクール事業（SGH：2014年度～2018年度）を契機に新しい高校教育の在り方を研究し、新しい社会の地平を切り拓くリーダーとしての資質を育む高校として、その役割を果たします。</p> <p>○生徒が学力を高めることができる指導を充実させるとともに、アクティブ・ラーニング（※注）の手法等を参考に本校独自の学習指導方法を活用し、継続して授業内容の充実に努めます。また、授業時間の確保に努め、学力の保証、充実、伸張に努めます。</p> <p>（※注）アクティブラーニングとは、中央教育審議会で「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び」とされ、子どもたちに必要な資質・能力を育成するための授業改善の視点のことであります。</p> <p>○生徒一人ひとりの個性の伸長を図りながら同時に、市民性・社会性（シチズンシップ）を育むとともに、本校に集うすべての人々が相互に尊敬し合い認め合う心で挨拶を交わす温かい組織風土を培います。</p>
学校運営等	<p>○生徒の学習状況や生活実態及び学級の状態を把握することにより、学力の向上及びいじめや不登校の未然防止等を図り、生徒の視点に立った理想の学校、理想の学級集団づくりを進めます。</p> <p>○教育計画や指導方法に関する実質的な議論が行えるように、各種委員会の充実や情報交換会、教員同士の授業見学等を充実して組織を活性化させ、教員の学習指導力と生徒指導力の両面を高めます。</p>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### （1）教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

（例）「教育課程・学習指導」「キャリア教育（進路指導）」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
SGH 事業 における 人材育成	<p><b>1</b> SGH事業（※注）の中間評価を行い、その評価結果に基づき改善工夫を進め、本校SGH事業の基盤を確立します。</p> <p>（※注）本校 SGH 事業の活動内容については、学校 HP をご確認ください。</p> <p>【活動指標】5本柱の実践的研究</p> <p>① 総合的な学習の時間『グローバル・マインド』</p> <p>② 学校設定教科・科目『グローバル・リーダー学』</p> <p>③ グローバルアクション</p> <p>④ 白熱英語講座</p> <p>⑤ 効果測定</p> <p>【成果指標】SGH事業の実践的効果の検証と改善</p>	<p><b>1</b></p> <p>【活動指標】</p> <p>① 1、2年生徒全員が各自課題を設定し、文献活用等により論文をまとめることができた。</p> <p>② 1年89名、2年56名合計145名が受講し、グローバル課題に関する専門家による講義にて知見を深めるとともに、海外フィールドワークや交流活動へ積極的に参加した。</p> <p>③ スーパープレゼンテーション、海外の学生たちとの交流、地域清掃活動等の諸活動に積極的に取り組むことができた。</p> <p>④ I期62名、II期20名の生徒が受講し、外国人大学教師の指導のもと、英語でグローバル課題をテーマとして討論した。</p> <p>⑤ 3年間総括として中間報告書を作成した。</p> <p>【成果指標】文部科学省より2年間の中間評価結果が公表され、そのコメントを基に、目標達成に向けて3年目以降の改善策を検討した。</p>	◎
	<p><b>2</b> 新たな海外フィールドワーク及び海外語学研修を安全かつ効果的に実施します。</p> <p>【活動指標】</p> <p>生徒総計50名以上が参加できる海外研修の策定</p>	<p><b>2</b></p> <p>【活動指標】海外フィールドワークにカンボジア12名、中国天津12名、ベトナム16名、オーストラリア海外語学研修29名、計69名生徒が海外研修に参加し、スーパープレゼンテーション等で成果還元できた。</p>	※

<p>学習指導 力向上</p> <p>授業の充 実</p> <p>授業時間 の確保</p>	<p><b>1</b> 生徒が興味関心を示し、内容を理解し学力が向上する授業を実践するために、「授業改善アンケート」を年2回実施し、「説明や発問等の仕方」「教材の準備や提示の仕方」「指導の工夫」等の視点別に教員が自己評価し、改善することにより、授業の質の向上を図る。</p> <p><b>【活動指標】</b>授業改善アンケート年2回実施</p> <p><b>【成果指標】</b> 12項目の平均点が「3」以上(満点4点)となる。</p> <p><b>2</b> 習熟度講座、少人数講座等を実施し、理解や定着を図り、生徒の満足度を高めます。</p> <p><b>【活動指標】</b> 学力検討会議・概ね2週間に1度開催</p> <p><b>3</b> 授業時間を確保するため、年間通して計画的に実施するとともに、自習時間は時間割変更して対応します。</p> <p><b>【成果指標】</b>自習時間数ゼロ</p>	<p><b>1</b></p> <p><b>【活動指標】</b>「授業改善アンケート」を年2回(6月、12月)に全教科科目の授業にて実施した。</p> <p><b>【成果指標】</b>12項目の平均点が3.35(6月)であった。</p> <p><b>2</b></p> <p><b>【活動指標】</b>2、3年国語・英語で習熟度講座を開講し、年度末に生徒アンケートにて満足度を把握した。学力検討会議を3年、2年は15回、1年は13回実施し、生徒の学習状況から今後の方針を立てて学力向上に努めた。</p> <p><b>3</b></p> <p><b>【成果指標】</b>自習時間10時間(前年度41時間)で大幅に減少できた。</p>	<p>◎</p>
<p>学級経営</p> <p>人権教育</p> <p>生徒指導</p>	<p><b>1</b> アンケートや面談を実施し、学級集団の状況や生徒一人ひとりの状況を把握し、親和的な学級集団の育成に取り組みます。</p> <p><b>【活動指標】</b>個人面談年間3回以上、アンケート1、2学年1回実施</p> <p><b>【成果指標】</b>学年修了時において全学級が満足型になる。</p> <p><b>2</b> SGH事業の取組と連携して人権学習を実施し、人権に対する意識を高めます。</p> <p><b>【活動指標】</b>人権教育の観点を取り入れた授業、人権講演会、人権学習の実施</p> <p><b>【成果指標】</b>学年修了時において全学級が満足型になる。</p> <p><b>3</b> 生徒同士、教職員、外来者等に対して場面に応じた挨拶ができるスキルを身につけるために、生徒会役員、室長、運動・文化部の部長が核となった挨拶運動など、生徒のコミュニケーション能力向上につなげます。</p> <p><b>【活動指標】</b>生徒を主体とした挨拶推進運動年5週以上実施</p> <p><b>【成果指標】</b>学校関係者評価委評価「概ね達成できている」以上、授業公開日保護者アンケート「概ね達成できている」以上</p>	<p><b>1</b></p> <p><b>【活動指標】</b>個人面談は3学年は4回、1、2学年は5回実施した。</p> <p><b>【成果指標】</b>QU(学級満足度)調査を実施し、すべての学級において満足型の結果であった。</p> <p><b>2</b></p> <p><b>【活動指標】</b>人権教育推進計画をもとに、講演会、人権LHRを計画的に実施した。授業公開日に全教員が人権教育の観点で授業を実施した。現職教育を2回実施し、教員の意識とスキルを高めた。</p> <p><b>【成果指標】</b>QU調査にて全学級が満足型であった。</p> <p><b>3</b></p> <p><b>【活動指標】</b>生徒会が中心となり、運動・文化部の部員や室長等協力を得て挨拶運動を6週実施できた。</p> <p><b>【成果指標】</b>保護者アンケート(5段階)で「よい」「まあまあよい」が94%で概ね達成できた。</p>	<p>◎</p>

改善課題

- ・SGH事業として「総合的な学習の時間」活用して論文作成に取り組んでいる。中間評価を受け、更に論文内容の充実深化を図るため、カリキュラムの改善が必要である。
- ・高大接続改革や新学習指導要領の動向も見据えて、主体的、対話的な深い学びの実現にむけて、更なる授業の充実を図っていく必要がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
現状把握 と組織改 善	<p>1 教科の指導計画や教材の共有化等を図り、教科内の情報交換を進めます。また各教科、科目指導計画の進捗状況調査を行い、学習指導の品質を整え、充実を図ります。また、質、量の両面から生徒の実態に合った課題が提供されているかについて必要に応じて聞き取り、定期的に検証し、適切な家庭学習が行われているかを把握し、生徒の学力向上につなげます。</p> <p>【活動指標】教科会を教科毎に10回以上実施、進捗状況調査の実施、全教員が他の教員の授業に年間1回以上参加してコメント提供。課題の質、量調査結果と学力向上の相関性について分析。成績順位別に任意抽出した生徒から聴き取り、実態を把握し、1学年は6、9月、2学年は6、11月に校長に報告し、改善につなげる。</p>	<p>1</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各教科学年代表からなる学力検討会議において、現状と課題等を共有し、今後の方針を立て、生徒の学力向上につなげた。また各学年状況は、定期的に学力向上戦略会議で報告して協議検討した。</li> <li>11月末に実施した授業進度の進捗状況調査では、全教科で概ね実施できた。</li> <li>年2回の授業公開日には全教員が他の教員の授業に参加するよう努め、コメントを提供して授業改善に活かした。</li> <li>読書活動を推進するため、1、2年は「学級文庫」を活用し、3年は「学年文庫」を新規に設置した。</li> </ul>	※
教育相談	<p>2 いじめや体罰の未然防止や早期発見に努め、必要に応じて関係機関とも連携して、生徒一人ひとりの心のケアに努めます。</p> <p>【活動指標】生徒全員の個別面談年間2回、スクールカウンセラー等の校内外の専門家、教育相談担当者、養護教諭と学年会議によるケース会議(※注)の実施</p> <p>(※注) ケース会議とは、チームで子供を支える教育相談及び特別支援教育の会議</p> <p>【成果指標】長期欠席生徒数が前年度より減少、いじめ・体罰ゼロ</p>	<p>2</p> <p>【活動指標】いじめ認知1件、体罰ゼロ。早期発見早期対応することで、素早く解決できた。生徒の個別相談1、2年5回、3年4回、ケース会議を延べ24回行い、情報の共有、対応方針の検討などを行った。</p> <p>【成果指標】長期欠席生徒数は、前年度より減少した。昨年度は各学年とも同程度であったが、今年度は1年生が減少した。</p>	◎
情報提供	<p>3 保護者、生徒との希望を把握した上で進路検討会議を実施し、個に応じた進路指導を組織的に行い、生徒の学力、適性にあった進路を実現します。また、保護者に最新の進路情報を提供するとともに、受験への支援や理解を図ります。</p> <p>【活動指標】保護者面談、生徒個別面談、進路検討会議の実施</p>	<p>3</p> <p>【活動指標】3学年では保護者面談1回、生徒個別面談3回、進路検討会議4回実施。1、2学年では個人面談5回(7月三者懇談を含む)を実施。</p>	
保護者連 携	<p>4 土曜学習会や課外授業(夏期講座含む)を充実させ、個に対応した指導を行います。</p> <p>【活動指標】土曜学習会および課外授業の実施</p> <p>【成果指標】3学年11月時点での第1志望校への合格率50%以上</p>	<p>4</p> <p>【活動指標】平日課外(前期)では、3年生:(I・II・IV期)41講座1098名、2年生:(I・II期)22講座987名受講。夏期課外では、1年生:13講座813名受講、2年生:14講座638名受講、3年生:43講座1863名受講。土曜学習会では、のべ77講座(参加生徒2345人)、第Ⅲ期までナツトクのべ9講座(参加生徒282人)実施した。</p> <p>【成果指標】</p>	

<p>学力向上</p> <p>組織活性化</p> <p>組織運営</p>	<p>1 定期試験、実力試験、実力養成試験などの他に確認テストや宿題テストなどを実施し、個人及び学年集団の学力を分析し、きめ細かい学習指導を行います。</p> <p>【活動指標】 各試験の実施、補習授業等学力補充の実施、各学年の学力検討会議を年10回以上実施</p> <p>2 進路主任を座長とする「学力向上戦略会議」(校長直轄)を定期的に行き、授業改善等に先進的な取組を行っている高校の実態の把握、指導方法の工夫、シラバス進捗状況のチェック、学年間情報連携等を行い、学力向上のための戦略と戦術を研究する。</p> <p>【活動指標】 年間12回以上実施</p> <p>【成果指標】 生徒一人ひとりが学年始めより学年終了時実施の同種の校外模試または校内実力試験において成績向上</p> <p>3 各種面談、アンケート調査、ケース会議などの情報、知見をもとに主任会議や各種委員会を定期的に行き、情報共有を図るとともに、校務分掌や部活動の在り方等も含め、継続した学校経営改善に取り組めます。</p> <p>【活動指標】 中間評価を実施、改善点の提案各委員会1項目以上提案</p>	<p>1</p> <p>【活動指標】 進路・学年と連携して各試験を実施した。確認テストは各教科・科目で適宜実施した。学力検討会議は2、3学年 15回、1学年 13回実施した。</p> <p>2</p> <p>【活動指標】 学力向上戦略会議を12回実施した。</p> <p>【成果指標】 英語力の向上指標として、GTEC for STUDENT グレード5以上が、1年の6月 143名から2年の12月 213名に増加した。</p> <p>3</p> <p>【活動指標】 10月末で中間評価を実施し、各分掌・学年が進捗管理や改善を行った。また各種委員会等においては、開催時に改善点があれば随時見直しを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議資料の提供方法を改善し、時間の効率化を図った。</li> <li>・高大接続改革、新学習指導要領を見据え新プロジェクトチームによる検討を始めた。</li> <li>・情報機器更新を見据え Online Speaking Training (OST) 導入を試行。</li> </ul>	<p>※</p>
--------------------------------------	---	---	----------

改善課題

- ・組織的に対応する体制づくりは一定進んできたが、形骸化しないように教育目標の共通理解を図りつつ、改善にむけた取り組みを継続的に行っていくことが必要である。
- ・教職員の勤務時間の縮減にむけて、生徒や保護者の理解も得ながら進める必要がある。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SGHの取組について、アクティブラーニング等の主体的な学習方法を学校全体で取り入れるなど、組織的に、かつ、包括的に益々推進して欲しい。</li> <li>・高大連携を推し進めるなかで、探求する力を培う活動を充実させ、積極的に取り組む生徒を増やす一方で、様々な悩みを持つ生徒へのきめ細かな支援体制も充実させていくことを期待する。また、生徒の進路選択に自信を持たせる取組へも繋げて欲しい。</li> <li>・教職員の授業改善への熱心な取組は高く評価でき、継続・発展を期待する。</li> </ul>
----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>SGH事業『グローバル・マインド』における1、2年生の論文作成については、2年間かけて計画的に取り組むプログラムを導入し、将来を見据えた探究活動となるよう深化させる。</p> <p>英語、国語の習熟度授業に加えて、試行的に数学の一部でも導入することで更なる授業の充実をはかるとともに、思考力、判断力、表現力を高める授業研究に取り組む。</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>教職員個々の進路指導力の向上を図るため、大学入試研究等の充実や、進路指導に関する情報共有機会を増加させるなど、生徒の進路実現のための研修会の実施を検討する。</p> <p>学校全体で組織的に取り組む学校行事等の計画・実施について、各分掌担当者・役割分担を早期段階で明確にするとともに、複数名によるチェック体制を強化することでミスを防止する。</p> <p>職員の勤務時間の縮減にむけて、会議の見直し、一斉退校日の実施、部活動の見直しに取り組む。</p>